

小さくても キラリと光る 特色ある大学にしたい

まごめ／堀水潤 撮影／渡辺まこと
 東京都市大学(旧 武蔵工業大学) 学長 中村英夫



【学長プロフィール】1935年生まれ。東京大学工学部卒業。帝都高速度交通営団、シュトゥットガルト大学客員教授、東京工業大学工学部助教授、東京大学工学部教授、運輸政策研究所所長、武蔵工業大学環境情報学部教授などを経て、2004年武蔵工業大学学長。工学博士。

【大学プロフィール】1929年設立の武蔵高等工科大学を前身に、1949年武蔵工業大学開学。2009年に東京都市大学に校名変更。工学部、知識工学部、環境情報学部、都市生活学部、人間科学部の5学部16学科。世田谷、横浜、等々力に3キャンパス。

本学は2009年、都市生活学部と人間科学部の文系2学部を新設し、既存の工学部、環境情報学部、知識工学部とあわせて文理5つの学部をもつ総合大学となりました。それに伴い武蔵工業大学から「東京都市大学」へ校名を変更し、新たなスタートをきることにしました。

新たに広げた学問領域においても、ただ規模を拡大するということは目指していません。本学の理念である「持続可能な社会発展を行えるような人材育成と学術研究を行う」ことを実現できるものとして、多くの人々をひきつけるが、様々な課題も含んでいる「都市」という分野を多様な視点から研究し、課題解決していける専門家を育成するものとなりました。

総合大学となりましたが、武蔵工業大学時代から実践してきた「専門性の高い教育を行う」という伝統が変わることはありません。すべての学部において学生には「深く学び、その道で「生暮らしていききたい」と思う高いモチベーションをもつて入学してもらいたい。そのため、本学が目指しているのは、規模の拡大ではなく専門性をいっそう高めた都市型の大学となることです。

本学は研究面でも高いレベルにあります。大規模校と比べると分野は絞られますが、小さくてもキラリと光る特色があります。例えば原子力分野がそうです。原子力の安全な活用は社会的課題ですが、どの大学でも扱えるわけではありません。本学には1960年開設の原子力研究所による長年の成果があります。早稲田大学と提携し大学院に共同原子力専攻を設置したのも、そうした強みを生かしてのことです。

他大学との連携といえば、医療工学分野における昭和大学をはじめ、室蘭工業大学や多摩美術大学とも単位互換などを行う包括連携協定を結んでいます。いずれも、力を補うことで双方がプラスになる取り組みです。

校名を変えるなどの外形的な変化は、無理をすれば短期間でも可能です。けれど中身となると「本日から変わりました」というわけにはいきません。何年もかかるし、また持続可能な発展とならなければ意味がありません。

運動部の活躍などで名を馳せる大学もすばらしいですが、本学は、大学の本分である地道な教育と研究に力を注ぐことで、国内外で存在感を高めていきたいと考えています。